



🌱 営農支援情報

「春野菜」管理作業のポイント

春からは野菜栽培が本格的に始まります。

育苗中の苗は温度管理を徹底し、丈夫な苗づくりに努めてください。

【夏ネギ】

○春播き育苗の場合は目標とする収穫期に合わせハウス内でチェーンポット育苗をします。

○定植時の苗の大きさは草丈20cm程度、葉数2～2.5枚、太さ2.5mm程度で根鉢が十分形成されていることが目安です。

○定植は畝幅90～100cm、深さが地表面から15～20cmの植え溝にチェーンポット苗を「ひっぱりくん」で平行に引っ張りながら行います。また、植え付けにあたってはチェーンポットの根鉢が土で隠れるようにしてください。



チェーンポット苗の定植作業

【アスパラガス】

○消雪後、萌芽の20日前を目安に堆肥と基肥を畝間（通路）に散布し、軽く中耕します。施肥量は栽植経過年数に応じ加減してください。

○施肥後、雑草対策として萌芽前（雑草発生前～発生始期）にロックス（除草剤）か、萌芽前～萌芽始期（雑草発生前～雑草4、5葉期）までにセンコル水和剤（除草剤）を散布します。

○4月から5月の始めにかけては晩霜による若茎の被害が心配されます。凍霜害による被害が発生したら無駄な養分を消費させないため、早期に被害茎を地際から除去してください。



一斉に萌芽したアスパラガス

【トマト】

○育苗期に極端な低温に遭うと、低段花房にチャック果、窓あき果などの障害果が発生しますので夜温は10℃以下にならないよう保温してください。また、ハウス内は午後、気温が20℃より下がらないうちに閉めてください。

○定植適期の目標となる苗は、草丈30～35cm、茎の太さ7～8mm、1段花房が1～2花咲いた頃です。

○活着を促進するためにマルチ利用に加えてトンネル被覆による保温、または補助暖房の準備を行い、地温15℃以上を確保してください。



育苗中のトマト

ご紹介

令和6年度「園芸畑作物反収向上に向けた検討会」を開催

J A全農あきたは3月12日、秋田県J Aビルで「令和6年度園芸畑作物反収向上に向けた検討会」を開催し、J A営農指導担当者や県本部関係部門担当者、県担当者などが出席しました。

稲作を基幹とする本県農業において、農業者所得の増大・農業生産の拡大を図るため、秋田県とJ Aグループが連携し複合経営の推進に取り組んでいます。

J A全農あきたは園芸振興の課題とされる反収向上対策として、多収性品種の導入や排水対策、新資材の導入、高温対策に向けた反収向上メニューの実証試験を10J A63実証圃で実践しました。

今回の検討会をふまえ、来年度においても品質・反収向上につながる実証課題に取り組み、J Aの営農指導力を発揮した栽培技術の構築と農業経営体の所得向上を目指します。



座長を務めた加藤参与、長澤アドバイザー

営農支援部 営農支援課 ☎018-880-1011



Za・あぐりふぉーむ
Zennoh-akita agriculture+reform



J A全農あきた営農情報誌 Za・あぐりふぉーむ
第62号 令和7年4月7日発行

編集・発行 J A全農あきた営農支援部営農支援課 〒011-0901秋田市寺内字大小路207-24 018-880-1011